

我が国の対南スーダン平和構築支援
ー現場からの視点ー

2018年1月28日
前駐南スーダン大使 紀谷昌彦
masahiko.kiya@mofa.go.jp

1. はじめに：今なぜ南スーダンなのか

自衛隊部隊の国連PKO派遣・撤収，世界最大規模の人道危機が継続

2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか

(1) 経緯

2011年に独立，2013年12月，2016年7月の2度の危機

(2) 要因

指導者間・部族間の相互不信，治安組織の未整備・小型武器の拡散，
行政諸制度の未整備・支援への依存，伝統的秩序の脆弱化

(3) 課題

南スーダン自身が主導し，国際社会の支援が得られる平和の実現
国民の和解，国際社会との協調，経済の安定

(4) 国際社会の取組

I G A D主導のハイレベル再活性化フォーラムの開催

3. 我が国の支援：何が強みなのか

(1) 自衛隊

国連PKOの機能強化，南スーダンの開発推進に重要な貢献
草の根の交流促進，他国部隊・要員との連携にも大きな意義

(2) J I C A

インフラ整備，制度・能力構築に対する高い評価
スポーツを通じた平和構築支援も

(3) 国際機関

人道から開発への移行，制度・能力構築，発信とスケールアップが課題
邦人職員が活躍，I C R Cによる独自の貢献

(4) N G O

ジャパン・プラットフォームは遠隔支援を工夫
大使館は現地NGOに対して草の根・人間の安保無償

(5) 政治プロセス

国連安保理で議論に積極的に貢献，国民対話支援も実施

4. おわりに：これからの課題は何か

自立・自助努力を重視する主要国の日本が関与・橋渡しする意義大，「使命」
国際平和協力，人道・開発支援，政治プロセスの各々で独自の付加価値

(以上)